



天明太平記

三

~ 13
3315
3



近世小説	開明小説	相州奇談	近代
鳴田一郎實錄	三田五人切實記	真土村實錄	紀文實錄
五十二冊	五十五冊	全	二十冊
堀田先生編	春色先生編	松村春輔著	
造化色論	世界大機	三府藤栗毛	春風日記
全	全	三編	全
於百實傳	怪妖物語	慶女香	誠光堂述
百十冊	大尾		
文永堂	大鳴屋傳左工門	誠光堂	池田屋清吉
誠光堂	池田屋利三郎	盛弘堂	池田屋清吉

東京
東
書林

牛本
池清

天明三年記卷之三

目録

- 一 田沼龍舟の生涯
- 一 田沼龍舟の著作
- 一 田沼龍舟の著作
- 一 田沼龍舟の著作
- 一 田沼龍舟の著作

天正十八年九月廿九日
本大學出版部

門 へ 13
3315
巻 3

新編東洋通志 卷之三

牛本
池清

天明三年記巻之三

田沼意助の事

并 行 例 あり 作 行 あり 事

天明三年十一月の秋又もあつ

つゝいふも 癩瘵と云ひ

此名は表ののころあしあ

諸由つゝいふも 入事録の

うれが 祓ゆが 白紙とらんくみ
り 電母なるのよみののこり
今 成形する所は くらげも
あふ 一せと 送る 支那も
う 書き 事すれが 報書と
つ 一 年 一 二 の 一 の
し どの 水が ち ぬ の 一 の
事 の 一 の 一 の 一 の

三つ まい 行れ ちん ちん
し 新 一 は ちん ちん ちん
と 一 つ 一 ぬ 一 の 一 の 一 の
の 一 の 一 の 一 の 一 の
名 文 二 三 年 一 三 月 一 日 迄
あ ち 作 月 一 一 一 一 一 一 一
九 月 十九 日 作 中 性 書 以 後 作 行 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

新に... 叙... 水...

田... 海... 龍...

新... 事...

相... 中... 用...

河... 海... 舟...

河... 舟... 舟...

人... 事... 金...

の... 事... 上... の...

の... 事... 何... の...

何... の... 事... 水...

天... の... 事... 水...

何... の... 事... 水...

小... の... 事... 水...

お遠あ——是天の吉兆の

く進々々々々々々々々々々々

相々々々々々々々々々々々々々々々
字亡又の進海より久文二年

十月十日候より候下り候々々々々
之今此之候——延享二年

九月十九日所中候此書は拾得例如

作中これ此書は拾得例如

ま——ま——ま——移

此の實保を各年一十月移

奥向所用各年作中これ十年

此の候々々々々々々々々々々々

同末年七月所例所

此の候々々々々々々々々々々々

九月十九日所中候此書は拾得例如

これれゆふしけ 何事一南
何のいふありひうま
正しき事あとのいふ
いふ

田沼をなす平家源氏と云事
並に事あとのいふ
國々事あとのいふ事

家小僧列々相度のはり
の権原源氏と云事
いふ
生はちるなりとのいふ
いふ
とあとのいふ事
とあとのいふ事
平家源氏と云事
源氏のいふ事

町人〜〜おのゝら出世ハ
出来〜〜何年〜〜作
と〜〜△とあ〜〜を
り〜〜接列〜〜の
り〜〜ま〜〜と〜〜
せし〜〜の社〜〜
人〜〜の社〜〜
持〜〜の

〜年の〜
翁〜
人〜
如〜
〜
何方〜
〜
〜

の蔵くらええ〜えのの子こもも金かね花はな傳でん
ふふれればばのの〜〜信しん傳でん
これこれもも花はならら〜〜はは信しん
上うよよ入い魂こん〜〜〜〜
〜〜のの心こころのの物もの振ふる毎まい々々
大だい々々かか〜〜振ふる年ねん〜〜々々
よよ来き〜〜源げん月げつとと云い書しよ〜〜
〜〜〜〜是こゝもも在あるる〜〜

〜〜源げん月げつ〜〜々々
のの〜〜々々平へい田でんのの〜〜
〜〜おお〜〜々々〜〜々々
〜〜〜〜のの心こころのの物もの振ふる毎まい々々
入い魂こん〜〜作さく蔵くら〜〜
〜〜〜〜のの心こころのの物もの振ふる毎まい々々
〜〜中ちゆう〜〜海かい〜〜々々
のの〜〜々々〜〜々々

幸ららりつゝ阿部とらるる
 のららりつゝあまのつと
 世に南のつと
 四谷のつと
 同
 乃士とらるる
 天月とらるる



翻 譚 書
 倭 軍 書
 唐 軍 書
 隨 筆 物
 國々名所
 近世戦争書類
 右々外數品は座山宮内院に在りて
 書物貸本所
 繪 本
 書 本
 滑稽物
 御擲物
 車書
 敵討
 諸家騷動
 曲亭馬琴之作
 其外諸先生作
 東京牛込細工所
 誠光堂 池田屋清吉

